

在校生・卒業生・保護者・教職員

進路通信 2016/05 後期

北海道釧路湖陵高等学校進路指導部

◆ 特集 看護ガイダンス ～「命」と向き合う～ ◆

湖陵高校では皆さんの興味・関心を引き出す取り組みとしてさまざまなことを実施しています。去る5月11日には、助産院マタニティアイの院長である成瀬恵先生を招いて看護ガイダンスを行いました。参加生徒は1～3年生合わせて73名で、広い地学教室もビッシリとなりました。参加した生徒は熱心にメモを取りながら耳を傾けていました。

講話は看護師を目指す（とりわけ助産師に関心を持つ）生徒にとって分かりやすく、非常に興味深い内容でした。母親のおなかの中にいる赤ちゃんの心音を聞かせていただいたり、感動的な出産シーンを映像で見せていただいたりと、あっという間の1時間でした。講話の内容を簡単に紹介します。

1. 助産師の仕事とは

医療系の仕事は多種多様であるが、その中で開業が認められている国家資格は医師と助産師のみであり、やりがいのある仕事だ。緊急時には医師の指示がなくても医療行為を行えるなど、重大な責任を負った職種でもある。助産師の仕事は「お産」だけではない。妊婦および幼児の健康指導や産後サポート、そして女性の一生に渡る心と身体のケアなどにも及ぶ。国家資格の中で「女性」しかすることができない職業である。

2. 助産師へのプロセス

助産師になるためのルートはいくつかあるが、可能性を広げるという意味でも、ぜひ4年制大学への進学を勧める。北海道には日本初の専門職大学院に認定された天使大学をはじめ、いくつかの大学がある。年間平均で75名が助産師としての資格を取得している。

3. 北海道における課題

養成機関が不足気味であることや、有資格者、出産が出来る産婦人科の道央圏集中などがあげられる。釧路地区では出産を扱っているのは市立釧路総合病院、日本赤十字釧路病院、中標津町立病院、別海町立病院、そしてマタニティアイの5カ所しかない。これは少子化の加速、そして地域の衰退に大きく関わる問題でもある。

4. 病院の助産師とマタニティアイの助産師との違い

マタニティアイではゆったりとしたアットホームな雰囲気の中で、一人一人に合ったケアを大切にしている。赤ちゃんを中心として家族の皆さんとも仲良くなり、長いつきあいが出来るように心がけている。

5. 高校生みなさんに伝えたいこと（成瀬先生から湖陵生へのメッセージ）

- ①夢を持ってください。夢の変更は何度でもオッケーです。
- ②夢を目標にして、決して諦めないで頑張ってください。
- ③手に職をつけて下さい。何年もかけて、プロフェッショナルを目指してください。
- ④「めんどろ」って言わないで下さい。是非とも活字を読みましょう。

→新聞などで情報を得ること！ 人と会話するための題材を持とう！
それが良いコミュニケーションを生みだして円滑な人間関係の構築にも役立ちます。

6. どのように生きるか

なんと言っても「やりがい」が一番。楽しくできること、人のためになること、人に喜ばれること、そして自分のためになること、そのような事を大切に仕事をしたい。マタニティアイは新3K職場だ。きつい・汚い・危険などではなく、かっこいい・感動・稼げるの3Kだ。更には「子供がいても大丈夫」を付け加えると4Kになる。

7. 「命」について

人の命ほど重たいものはない。望まれないで生まれてきた人間などいない。誰にでも必ず父がいて母がいる。自然分娩で生まれても帝王切開で生まれても、どちらも同じように大切な命だ。以前の釧路は人工妊娠中絶率が非常に高かった。助産師を含む多くの人々の尽力により近年かなり改善されてきたが、それでも生まれてくるべき千人の赤ちゃんのうち12人は、人生をスタートすることさえ親によって阻まれている。その人数をゼロにするために、特に若い女性への啓蒙が必要とされる。

□質疑応答～たくさんの積極的な質問がありました～

Q: 助産師の勤務時間はどのようになっているのですか？

A: 勤務時間は一応決まっている。ただし時間帯を選べない特殊な職種であるため柔軟な対応をする必要がある。院長である自分は出産には必ず立ち会う。大変であるが自分が選んだ道であり満足している。

Q: 助産師の離職率が高いと聞くのですが、本当ですか？

A: 離職率は実際に高めです。ただし就職にはとても有利な資格であり、どこの土地で暮らしても新たな職場を容易に見つけることができます。

Q: 読書が大切なのは本当ですか？それは何故ですか？

A: 読書は絶対に必要です。幅広い知識を得て教養を深めるだけでなく、患者さんとのコミュニケーションを充実させるためにも、様々な分野の読書が役立ちます。自分自身は学生の頃に毎日の読書を強く勧められて習慣が付きましたが、その後の人生に大いに役立っています。



□生徒のレポートから

☆もっとたくさんの本や新聞を読んだり、普段から活字にたくさん触れることを意識したい。何事にも諦めず「自分はできる！」と言い続けることが大切で、言葉には気をつけようと思った。普段から、「ありがとう」の気持ちを忘れず、何に対しても言葉で表現する。自分の進路をもう一度考え、しっかり勉強します。

☆活字を日頃から読むようにしたいと思いました。高校に入ってから読書の時間が減り、今ではもう読まなくなってしまったので、スキマ時間を見つけて新聞や本を読みたいです。『ちょっとヤバいかも』より『きっと大丈夫』と言った方が自分も相手も頑張れる」と成瀬先生は仰っていたことはその通りだと感じました。「言霊」の力で頑張りたいと思います。

☆私の中での助産師は、常に妊婦さんのケアをするとてもハードなイメージでした。しかし講演を聞いて、妊婦さんのサポートが中心ですが、それ以上に家族の方に親身になり、一緒に頑張っていくという雰囲気を感じ、看護師とは違ったやりがいがあると思いました。看護師になるより長い道のりですが、尊い生命を1番そばで救い、支える、とても魅力的な職業だと改めて感じました。

☆これから心がけてほしいことー夢を持つ・言葉は「言霊」・辛くても諦めずに頑張る・手に職をつけると強い・「めんどろ」と言わない、活字を読むことーそれぞれの説明が心に響いた。心がけようと思う。

☆胎児の成長の過程を見て、お産の様子を音声で聴いて、とても苦しく痛い思いをして赤ちゃんを産んだお母さんは強いと思い、母親にも感謝したいと感じた。助産師になりたい気持ちが湧いてきた。

☆成瀬先生がおっしゃっていたことの中には私の日常の中で、できることがたくさんありました。前向きになる、良い言葉を口にする、諦めない、活字を読むなどをこれから実践していきたいです。特に私は、よく「面倒だ」と思ったり言ったりしてしまうので、常に前向きに楽しんで、たくさんすることに挑戦したいと思いました。

☆よく言われている3 K（きつい・汚い・危険）とは違い、3 K（かっこいい・感動がある・稼げる＋子供がいても大丈夫）を聞き、大変なお仕事を成瀬先生は「やりがい」と感じ、前向きで心の強い方だと思いました。私もかっこいい医療者になりたいと改めて思い、目標をより詳細に立てることが出来ました。地方の助産施設が少なく、衰退している現状を聞き、少しでも役に立ちたいと思いました。

☆人工妊娠中絶率が釧路では一時期24%もあったなんて驚きました。しかも私と同学年くらいで、もしかしたら、クラスメイトや後輩にいたかもしれないと思うと、いろいろ考えさせられました。

☆「助産師になりたい」と考えたことはなく、進路の視野にも入れてなかったのですが、とても良いお話を聞けました。看護は命と向き合う仕事ですが、助産師は生まれてくる命と向き合える素晴らしい仕事だと思いました。

☆地方では助産師が少ないことが少子化にもつながっていることがわかったので、これもまた深刻な問題だと思った。とても良いお話を聞いて良かったです。参加した生徒たちのレポートには、学年毎に共通している内容も多くありました。

1年生 看護師の仕事は素晴らしいと思った。日々の勉強をしっかり頑張りたい。
2年生 看護師として必要な資質を学べた。学習面ばかりでなく人間として成長したい。
3年生 絶対に看護師（助産師）になりたい。医療従事者として社会で活躍するぞ！

□看護ガイダンスを受講して

保健体育科 笹木真由子

「あの出会いが自分の人生を変えた」。みなさんは、そんな人や場所やものが思い浮かびますか？私にとってはそれが「助産院マタニティアイ」です。

昨年8月、マタニティアイで2度目の出産をしました。1人目は総合病院での出産でしたが、赤ちゃんとお母さんのリズムに合わせた自分の納得のいくお産がしたいと思って2人目からは助産院での出産を希望しました。健診を受け始めてから出産までの約8カ月。スタッフの方々は本当にきめ細やかに常に笑顔であたたかく対応して下さり、子どもを宿している幸せを一緒に分かち合い、不安を和らげ、ともに歩んで下さいました。陣痛で苦しい時は背中をなで、励ましながらずっとそばにいて下さいました。無事に産まれてくれるかと心配しましたが、「大丈夫よ～。大丈夫よ～」と声をかけられ、勇気をたくさんもらいました。その心強いことと言ったらありません。マタニティアイで、家族に囲まれながら赤ちゃんを迎えるという幸せな出産できたことは、私にとって素晴らしい思い出であると同時に今後の人生を歩む大きなパワーとなっています。

看護の中でも特に「助産師」の仕事は、命が相手の仕事ですから24時間体制。赤ちゃんや妊婦さんが中心の生活で休みも無く、きつくて大変な仕事だとは思いますが、それを天職として熱い使命感のもとに助産院を続けられているのは、大きな感動とやりがいがある仕事なのかもしれません。病院・助産院、どこで出産するにせよ、安心して満足のいくお産ができることは、日本の女性や子ども、そして家族を支え、日本の未来を明るくすると思います。それをサポートするのが助産師です！

助産師に限らず、命の現場に立つ「医療」の仕事。責任も伴いますが、やりがいのある仕事であることは間違いなさそうです。私のように、医療によって支えられ、生きる力をもらう人がいるのです。看護医療職を希望されているみなさんはそれぞれ、なぜその道に進みたいのでしょうか。いまいちど深く自分の心の声に耳を傾けてみてください。強い意志、熱い思い、使命感があってこそその仕事です。辛い状況に立たされた時に自分を奮い立たせるのは、この「志」だと思うのです。

熱いまなざしで成瀬先生のお話を聞く志高き看護師の卵（湖陵生）さんたちの背中を後ろから眺めながら、地域医療を支えていこうという強いエネルギーを見ているような気持ちになりました。最後に、成瀬先生流にみなさんにエールを送ります！

「あなたならやれる！あなたならできる！あなたなら大丈夫！」

□最後に

今回は看護職を目指す人のためのガイダンスでしたが、全く違う分野を目指す人にも有意義な内容だと思います。職業選択は自分の一生に関わる大切な問題です。ぜひ興味のある分野に関して積極的に情報を集め、自分にあった進路を選ぶようにしましょう。

看護職希望者には今後も看予備主催の説明会、勤医協主催の看護実習（夏休み）、札幌医科大学による説明会（秋）、そして看護協会が実施する看護体験（秋から冬）などがあります。ぜひ参加しましょう。その前にまずは日々の学習に全力で取り組みましょう。